

# ツアー形式で「介護旅行」

## SPI 低価格でヘルパー同行



来年は「介護予防」を組み合わせた旅行も販売する

新たに扱うツアー商品は、定員を二十人前後に設定。年間十本程度を企画する。個人国内旅行の場合は、添乗員の人件費、交通費などを含めて一泊七万~八万円ほどだが、ツアー料金はヘルパー二人で団体の世話をするため、一泊三万~四万円を想定。オプションとして個別にヘルパーを付けることもできる。

また、来年の介護保険制度の見直しにより「介護予防」が取り入れられるため、温泉療法や食事療法を組み合わせた旅行も販売する。二泊三日で七万六千円程度になる見通し。健康を意識する高齢者の需要を見込む。ツアー形式旅行でも、現在の個人旅行で対応している全国の登録ヘルパー約三百人や、バリアフ

会員制の介護付き旅行を手がけるSPI(東京・渋谷・篠塚恭一社長)は、ヘルパー資格を持つ添乗員を旅行に同行させる「介護旅行」の販売を来年二月から本格化する。これまでは会

員ごとに個人手配で対応していたが、登録ヘルパーの拡充により、ツアー形式のパッケージ商品を導入する。要介護者の旅行需要が高まっているため、介護事業所などに販販する。

リー設備などが整っている百力以上の宿泊施設をそのまま活用する。

SPIは、会員制の介護付き旅行「あ・える倶楽部」を運営、要介護者の旅行需要に個別に対応してきた。ヘルパー資格者が添乗員として同行、

旅行中の身体介護や入浴介助などをサポートする。これまでは登録会員のほか、提携先のコムスからの紹介を受け、年間で千五百人超がサービスを利用している。ただ利用者ごとの対応では事業拡大が難しいとみた。

旅行補助などは介護保険対象ではないが、要介護者の旅行ニーズは徐々に高まっている。このため、料金を抑えられるツアー商品への需要はあると判断した。初年度は二千万円の売上高の達成を目指す。